

『学び・ナビ』

発行責任者
校長：有賀 真道
学習担当：川野 邊勝也

ふくしまの「家庭学習スタンダード」



1月15日に配付しました、県教委発行の『ふくしまの「家庭学習スタンダード」』。ご覧になっていただけただでしょうか。

今回は、「家庭学習スタンダード」の作成意図や内容の解説をしていきたいと思います。

1 「家庭学習スタンダード」の作成意図

- ① 全国学力・学習状況調査の結果から、平日に1時間以上、休日に2時間以上勉強する福島県の児童生徒の割合は全国平均を上回っているものの、各教科の平均正答率等には、必ずしも結びついていない現状がある。
- ② 国が示す学習指導要領（学校における教育課程の基準となるもの）では、学びに向かう力・人間性等を涵養することが盛り込まれ、家庭との連携を図りながら児童生徒の学習習慣が確立するよう配慮することが求められている。

上記二点を踏まえ、家庭学習に対する学校と家庭・地域がそれぞれの役割をお互いに理解し、連携・協力して児童生徒を指導・支援することを通して、家庭学習の質の向上を図っていくことを目的に、家庭学習スタンダードが作成されました。



2 「家庭学習スタンダード」の概要

表紙に「自己マネジメント力」とあり、「自己マネジメント力」を育成することが重要視されています。

家庭での学習は、教師という学習のペースメーカーがいない状況で、子ども自身が学習を進めなければなりません。また、テレビやテレビゲーム、マンガや携帯電話など、誘惑が多い環境の中で、主体的で自律的に学ぶことが求められます。そんな中で、自分で学習や生活を改善する力＝「自己マネジメント力」を身に付けることが求められているのです。

県教委では、この「自己マネジメント力」を「R-PDCAサイクル」を通して身に付ける力と定義しています。「R-PDCAサイクル」とは以下のような取組を循環させることです。

「R」…Research(自分を知る)

＝自分の課題を客観的にとらえる→学習時間、学習内容、学習方法等

「P」…Plan(計画する)

＝自分の課題に沿った目標や計画を立てる

「D」…Do(自ら学習する)

＝計画に沿って主体的に学習する

「C」…Check(確かめる)

＝学習の成果や取組を振り返り、確かめる

「A」…Action(見直す)

＝学習の内容・方法を見直し、修正する



3 学校での取組

- ① 家庭学習の習慣化の促進
- ② ノート活用の工夫
 - ・ 友達のノート作りを見る機会（ノートチェック、自学コンクールの開催）
 - ・ 授業の要点をまとめるノート作り等
- ③ 基礎的指導の充実
 - ・ 家庭学習の個別化、プリント準備等
- ④ 家庭学習のガイダンス
 - ・ 「学習の手引き」の活用
- ⑤ 家庭学習の点検・評価と指導
 - ・ 毎週金曜日の「ノートチェック」と友達・先生からのコメント記入



4 保護者をお願いしたいこと

- ① 「心の支え」になってください

家庭学習から逃げたくなったり、それをやり遂げる自信をなくしたり、学習成果に不安を感じているお子さんの心を、サポーターとしてコミュニケーションを図りながら、時に厳しく、時に温かくしっかりと支えてください。
- ② 「環境づくり」をお手伝いください

学校の教師のように授業を通して直接子どもを教えるのではなく、教材の準備や機会の提供、学習ペースや静寂な時間の保障（メディアを遠ざける）等の条件整備をお手伝いください。
- ③ 「習慣づくり」もお願ひします

早寝・早起き・朝ご飯、そして家庭でのお手伝いの習慣を身に付けさせましょう。テレビやゲーム、スマホなどをするときのルールを決めましょう。

5 最後に

本校の「学習の手引き」にも家庭学習を充実させるためのノウハウがつまっています。是非、この機会に「家庭学習スタンダード」と併せて活用してほしいです。

学びのススメ～家庭学習編～

1 なぜ、家庭学習が必要なの？

授業だけで、学習内容を定着させることができればベストですが、なかなかそう簡単にはいかないのが現状です。最近、授業でしっかりと学習内容が定着したとしても、時間の経過にもたなると、身に付けた学習内容を忘れてしまうこともあります。（右図参照）

授業と家庭学習は車の両輪のようなものです。家庭学習にもしっかりと取り組むことで、学力を向上させていきましょう。

2 家庭学習4つのポイント

① 学習環境を整える

- 机の上を整理整頓しておく。
- 学習に必要な物はすぐに取り出せるようにしておく。
- テレビ、ゲーム、スマホ等に気を散らさないようにする。

（誘惑物を遠ざける。一気置中は携帯ゲームやスマホ等は家族に預けてみては？）

② 時間を決める

- 学習時間の目安＝1時間半～2時間
（下校時刻の早い、遅いに合わせて、時間を調整できるとよい）
- 自分が集中しやすい時間帯、時間帯を指定する。
 - ・ 時間帯（朝晩など）
 - ・ 時間帯（30分×3セットなど）
- ゆとりのある休日には、学習時間を少し多めにしよう。

③ 学習内容は？

- 1) まずは各教科、学年の目標・課題を確実に済ませる。
- 2) 次にその日の授業を中心に復習をする。
 - ノートづくり
 - 授業の板書事項を、自分なりにアレンジ（自分なりの解説を加えたり、勘解したりする）して分かりやすくまとめてみるのはどうですか。
 - ドリル学習
 - 難易度が適切な分野や単元は、繰り返し書いて覚える。
 - まちがい探し
 - テストやプリントでまちがえた問題を、教科書やノートを見ながら、もう一度解いてみる。
 - ワークブックで問題演習
 - 学習した範囲の問題を解いてみる。
- 3) 余力があれば、次の日の学習をする。
 - 次の日の授業で学習する単元、ページ等を選んでおく。（発展が効果的）

分からない言葉や内容が出てきたら、即ち自分で調べたり（辞書、インターネット等）、考えたりして辞書に臨めば、理解度が高まり、授業に集中できる。

④ その他

- 学習内容を事前に決めておく。
 - ・ 宿題以外の学習（復習・予習）で、何から取りかかるのが決めておく（スムーズに学習に取り組める。〈次の日の時間帯、学習ペースから。意図して取り組みたいことなど。〉）
- ※ 毎日の短学活時に、その日の家庭学習の内容や目標をノートに記入してもらいます。
 - ・ 学習のスタートは、「漢字練習」、「計算練習」、「単語練習」など簡単に取り組めるものの方が取り組みやすい。
- 時間を計って学習すると集中力が高まる。
 - だらだら学習するのではなく、より早く正確に学習できるように、ストップウォッチ等で時間を計りながら学習すると集中力が高まる。（家族の協力を得て、時間を計ってもらってもよいですね。）
- 同じ問題に複数日、連続して取り組むと定着率が高くなる。
 - 同じ問題に3日、4日と繰り返し取り組むことで定着率が高まります。（数科反復）
- PDCAサイクルを確立させる。

「P」＝Plan（計画）
→ 学習計画を立てる。

「D」＝Do（実行）
→ 学習計画に沿って学習する。

「C」＝Check（点検・評価）
→ 計画に対して進んでいるかをチェックする。

「A」＝Act（改善）
→ 計画通りにいかないところに改善を加える。

自分なりの計画に基づいて、家庭学習を行う中で、思うようにいかなかったり、効率が悪かったりなどという場合もある。そのためにも、定期的に家庭学習の振り返りを振り返り、改善を加えていく必要がある。

地道で、継続的な取り組みが学力を向上させます。継続は力なり！